

病害虫発生予報 第5号

(向こう1か月間の発生予報)

I 総括表

作物名	病害虫名	地域	発生量	発生時期	摘要
水稲	穂いもち	全域	やや多～多	並～やや早	
	紋枯病	全域	並～やや多	並	
	白葉枯病	全域	少	並	
	ツマグロヨコバイ	全域	並	並	
	セジロウンカ	全域	並	並	
	カメムシ類(斑点米)	全域	並～やや多	並	
	イモヅク(イモヅク)	全域	並～やや多	並～やや早	
	イナゴ	全域	並～やや少	並	
大豆	紫斑病	全域	並	並	
	子実害虫類	全域	並～やや多	並	
りんご	褐斑病	全域	並	並	
	黒星病	全域	並	並	
	斑点落葉病	全域	並	並	
	輪紋病	全域	並	並	
	炭疽病	全域	並	並	
	すす点病・すす斑病	全域	並	並	
	キンモンホソガ	全域	並	並	
	スモモヒメシンクイ	全域	並	並	
	ナシヒメシンクイ	全域	並	並	
	モモシンクイガ	全域	並	並	
	リンゴハダニ	全域	並～やや多	並	
	ナミハダニ	全域	多	並～やや早	
	リンゴコカクモンハマキ (ハマキムシ類)	全域	並	並	
なし	うどんこ病	全域	やや少～並	並	
	黒星病	全域	並	並	
	黒斑病	全域	やや少～並	並	

なし	輪紋病	全域	並	並	
	枝幹性病害(胴枯・枝枯病)	全域	並	並	
	カメムシ類	全域	並	並	
	シンクイムシ類	全域	並	並	
	ハダニ類	全域	並～やや多	並	
リンゴコカクモンハマキ	全域	並	並		
もも	せん孔細菌病	全域	並	並	
	灰星病	全域	並	並	
	ハダニ類	全域	並	並	
	シンクイムシ類	全域	並	並	
	モモハモグリガ	全域	並	並	
リンゴコカクモンハマキ	全域	並	並		
ぶどう	べと病	全域	並	並	
	さび病	全域	並	並	
	チャノキイロアザミウマ	全域	並～やや多	並	
かき	うどんこ病	全域	並	並	
	炭疽病	全域	並	並	
	円星落葉病	全域	並	並	
	カキクダアザミウマ	全域	並	並	
	カキノヘタムシガ	全域	並	並	
	ハマキムシ類	全域	並	並	
フジコナカイガラムシ	全域	並	並		
トマト	輪紋病	全域	並	並	
きゅうり	炭疽病	全域	並	並	
	褐斑病	全域	並	並	
	うどんこ病	全域	並	並	
キャベツ	黒腐病	全域	並	並	
ブロッコリー	黒腐病	全域	並	並	
はくさい	軟腐病	全域	並～やや多	並	
アブラナ科 野菜	黒斑細菌病	全域	並	並	
	コナガ	全域	並	並	
レタス	斑点細菌病	全域	並～やや多	並	
	腐敗病	全域	並～やや多	並	
	軟腐病	全域	並～やや多	並	

アスパ ラガス	茎枯病	全域	並～やや多	並
	斑点病	全域	並	並
野菜・花き 共通	オオタバコガ	全域	並～やや多	並
	アブラムシ類	全域	並	並
	ハモグリバエ類	全域	並	並
	アザミウマ類	全域	並～やや多	並
	ハダニ類	全域	並～やや多	並

※発生時期の空欄は、発生時期の関係ないものや常時発生ものを示す。

※地域指定がある場合は、その地域以外は、発生量、発生時期とも「並」を示す。

II 向こう1か月の天候の見通し及び予報の根拠にかかる気象要因

1 向こう1か月の天候の見通し (気象庁 令和4年8月11日発表)

○関東甲信地方【8月13日～9月12日】

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高い見込み。

前線や湿った空気の影響を受ける時期があるため、向こう1か月の日照時間は平年並か少ない見込み。

○向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の出現確率(%)

区 分	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
平均気温	20	30	50
降水量	30	30	40
日照時間	40	40	20

2 予報の根拠にかかる気象要因

(+) は発生を増加させる要因、(-) は発生を減少させる要因を示す。

III 水稲

1 穂いもち

(1) 予報の内容 発生量：やや多～多 発生時期：平年並～やや早

(2) 予報の根拠

①7月中旬以降、葉いもちの発生ほ場が増加しており、巡回調査では、葉いもちの発病株率が急増したほ場がみられる。また、一部のほ場では、上位葉への葉いもちの進展がみられている。

②気象要因 (-) 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

①上位葉に病斑が目立つほ場では、穂ばらみ期と出穂期に穂いもち防除を徹底し、穂、節いもちの多発生が予想される場合には、さらに出穂5日後と10日後の2回防除を行う。

2 紋枯病

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、一部のほ場で発生が多かったが、全般にほぼ平年並の発生である。

②気象要因 (+) 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

①病勢が上位葉鞘へ進展し始める出穂前2週間～出穂期に防除する。

②平年より出穂が早まっているほ場があるため、防除の時期を逸しないようにする。

3 白葉枯病

(1) 予報の内容 発生量：少ない 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①巡回調査等での発生は現在まで確認されていない。

(3) 防除上の留意点

①常発地では、本病に感受性の高い品種を作付けしている場合は注意する。

②高温、多湿、台風等による浸冠水は発生を助長するので留意する。

4 ツマグロヨコバイ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①巡回調査における発生は、一部のほ場で多かったが、全般には平年に比べてやや少なかった。

(3) 防除上の留意点

①防除薬剤の特性を考慮して使用時期に留意する。

5 セジロウムカ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①8月上旬の巡回調査では、発生は全般に平年に比べやや少なかった。

②気象要因 (+) 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

①今後の予察情報に注意する。

6 カメムシ類 (斑点米)

(1) 予報の内容 発生量：並～やや多 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①8月上旬の巡回調査(ネット20回振)では、東信地域で発生がやや多かった。

②予察灯への7月の誘殺頭数は平年並かやや少なかった。

③気象要因（＋） 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されており、カメムシ類の活発な活動が予想される。

(3) 防除上の留意点

- ①茎葉散布剤の防除適期は出穂10日後である。カスミカメ類では防除時期が早すぎると効果が劣る場合があるので、防除時期に留意する。
- ②粒剤による防除は、薬剤により防除時期が異なり、エチプロロール粒剤は出穂期に、ジノテフラン粒剤、クロチアニジン粒剤は出穂7日後に散布する。湛水状態で均一に散布し、散布後少なくとも7日間は止水とし、湛水状態を保つ。
- ③常習発生地など発生が多い地域（ほ場）では、さらに7～10日後に追加の茎葉散布を行う。
- ④粉剤はドリフトしやすいので、特にミツバチ等への危被害に注意する。

7 イチモンジセセリ（イネツトムシ）

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：並～やや早

(2) 予報の根拠

- ①黄色粘着トラップを用いた第1世代成虫の発生予察調査によると、誘殺頭数は平年に比べてやや少なかった。
- ②巡回調査等では、一部のほ場でイチモンジセセリによる『つと』の発生が多い。

8 イナゴ

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや少 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査（ネット20回振）における捕獲頭数は、一部のほ場で多かったが、全般には平年に比べてやや少なかった。

(3) 防除上の留意点

- ①多発ほ場では、早期に防除を実施する。

IV 大豆

1 紫斑病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①前年の発生は平年並で、保菌種子や被害残さでの越冬量は平年並と予想される。

(3) 防除上の留意点

- ①開花終期～粒肥大初期に、莢部へ薬剤が十分かかるように散布する。
- ②チオファネートメチル剤の耐性菌が確認されている地域では、同一系統の薬剤の使用を避ける。

2 子実害虫類（マシクイガ・シロイロシジミ・マダラメイガ・カメムシ類・ダマシバチ等）

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①前年の発生は全般に平年並であった。
- ②カメムシ類の発生の多いほ場がみられる。

③気象要因（＋） 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されており、害虫類の活発な活動が予想される。

(3) 防除上の留意点

- ①カメムシ類を除いて、連作ほ場で発生が多くなる傾向がある。
- ②防除適期は幼莢期～子実肥大期（例年は8月中旬～9月上旬頃）である。薬剤は莢に十分かかるよう丁寧に散布し、発生の多い場合は7～10日間隔で2～3回散布する。
- ③山際や法面の大きい傾斜地では、カメムシ類の発生が多い傾向にある。カメムシ類の被害は、稔実中後期にも大きいので注意する。

V りんご

1 褐斑病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、東信地域で発生がみられ、発生量は平年並である。

(3) 防除上の留意点

- ①「長野県農作物病害虫・雑草防除基準」（以下「県防除基準」という。）を参照し、定期的に防除する。

2 黒星病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、東信地域、北信地域で発生がみられ、発生量は平年並である。

(3) 防除上の留意点

- ①秋季に病勢の伸展がみられるので、「県防除基準」参照し、定期的に防除する。
- ②薬剤耐性菌のまん延防止のため、殺菌剤の選択においては農業農村支援センター、JAなどの指導を受けること。

3 斑点落葉病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、東信地域、北信地域で発生がみられ、発生量は平年並である。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、定期的に防除する。

5 輪紋病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、発生がみられなかったが、全般的に発生量は平年並である。
- ②越冬伝染源量は平年並とみられる。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、定期的に防除する。

6 炭疽病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
 (2) 予報の根拠
 ①越冬伝染源量は平年並とみられる。
 (3) 防除上の留意点
 ①「県防除基準」を参照し、薬液が十分かかるように定期的に防除する。
 ②突発的な降雨が続くと予想される場合は、散布間隔を10日程度に縮める。
 ③気温が高く、降雨によって濡れ時間が長いと、果実感染が増加するので注意する。
 ④発病果は見つけ次第除去し、土中に埋めるなど適正に処理する。

7 すず点病・すず斑病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
 (2) 予報の根拠
 ①巡回調査では、発生はみられなかった。
 (3) 防除上の留意点
 ①「県防除基準」を参照し、定期的に防除する。
 ②中晩生種では8月中旬～9月上旬頃まで、降雨の多い場合は9月中下旬頃まで防除する。ただし、薬剤の選択にあたっては、品種の収穫期と薬剤の使用時期に注意する。

8 キンモンホソガ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
 (2) 予報の根拠
 ①巡回調査では、東信地域、中信地域、北信地域で寄生葉がみられ、全般的に被害葉率は平年並である。
 ②8～9月の第3・4世代成虫の発生は、前世代成虫より増加する傾向にある。
 (3) 防除上の留意点
 ①「県防除基準」を参照し、防除する。

9 スモモヒメシンクイ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
 (2) 予報の根拠
 ①巡回調査では、シンクイムシ類による被害はみられなかった。
 ②須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年並である。
 ③佐久市、中野市でのフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年並～やや多い。
 (3) 防除上の留意点
 ①第3世代成虫は、平年は9月上中旬から発生するので、重要防除時期になる。
 ②「県防除基準」を参照し、シンクイムシ類に登録のある薬剤を選択し、丁寧に散布する。
 ③多発園では、散布間隔を10日間にして防除する。

10 ナシヒメシンクイ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
 (2) 予報の根拠
 ①巡回調査では、果実への寄生はみられなかった。
 ②須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年並である。
 (3) 防除上の留意点
 ①「県防除基準」を参照し、防除する。

11 モモシンクイガ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
 (2) 予報の根拠
 ①巡回調査では、被害果の発生はみられなかった。
 ②須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年と比べやや少ない。
 (3) 防除上の留意点
 ①「県防除基準」を参照し、定期的に防除する。
 ②気温が高めに推移すると、卵期間が短くなるため、散布期間の10～14日を守り防除する。
 ③被害果は土中に埋めるなどして、適切に処理する。

12 リンゴハダニ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**
 (2) 予報の根拠
 ①気象要因（+） 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。
 ②巡回調査では、東信地域、南信地域、北信地域で寄生がみられる。
 (3) 防除上の留意点
 ①園地の発生状況に注意し、密度が増加する前に、「県防除基準」を参照し、殺ダニ剤を散布する。
 ②殺ダニ剤の散布前に徒長枝切りや枝吊りを行い、手散布やSSの縦横走行散布等によって樹冠内部まで薬液が十分にかかるようにする。
 ③多発が予想される場合や発生が多い場合は、基準内で散布量を増やし、散布間隔を短くする。

13 ナミハダニ

- (1) 予報の内容 発生量：**多** 発生時期：**平年並～やや早**
 (2) 予報の根拠
 ①気象要因（+） 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。
 ②巡回調査では、県下全てのほ場で寄生がみられ、多発生のほ場も散見される。
 (3) 防除上の留意点
 ①園地の発生状況に注意し、密度が増加する前に、「県防除基準」を参照し、殺ダニ剤を散布する。
 ②殺ダニ剤の散布前に徒長枝切りや枝吊りを行い、手散布やSSの縦横走行散布等によって、樹冠内部まで薬液が十分にかかるようにする。
 ③多発が予想される場合や発生が多い場合は、基準内で散布量を増やし、散布間隔を短くする。

14 リンゴコカクモンハマキ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
 (2) 予報の根拠
 ①越冬世代成虫の発生量及び発生時期は、全般的に平年並である。

- ②巡回調査では、幼虫による新梢被害はみられなかった。
- (3) 防除上の留意点
- ①「県防除基準」により薬剤を選択して防除する。
- ②平地での第2世代幼虫の防除適期は8月上旬頃である。

VI なし

1 うどんこ病

- (1) 予報の内容 発生量：**やや少～平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、発生はみられなかったが、一般的に発生量は平年並である。
- (3) 防除上の留意点
- ①常発園等被害のあった園では、収穫後に薬剤防除を行う。
- ②多発により落葉すると、次年度の花芽形成に影響するので注意する。

2 黒星病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、南信地域で発生がみられ、発生量は平年並である。
- ②毎年発生している園では発生が継続すると思われるが、高温や乾燥により病気の拡大が抑えられることも予想される。
- (3) 防除上の留意点
- ①「県防除基準」を参照し、防除する。

3 黒斑病

- (1) 予報の内容 発生量：**やや少～平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、発生はみられなかった。
- ②園地では防除が徹底されていることから、発生量はやや少ない。
- (3) 防除上の留意点
- ①「県防除基準」を参照し、防除する。

4 輪紋病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①梅雨期の降雨量は地域によって少なかったが、梅雨明け以降は適度な降雨があり、発生量は平年並である。
- (3) 防除上の留意点
- ①「県防除基準」を参照し、間隔をあけすぎないように定期的に防除する。
- ②無袋栽培の西洋なしは本病にかかりやすいので、今後の降雨の状況に注意する。

5 枝幹性病害（胴枯病・枝枯病）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、発生はみられなかったが、一般的に発生量は平年並である。

- (3) 防除上の留意点
- ①「県防除基準」を参照し、薬剤が幹までよくかかるように防除する。

6 カメムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、チャバネアオカメムシ（成虫）の寄生はみられなかった。
- ②高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、クサギカメムシは平年並、チャバネアオカメムシは少なかった。
- (3) 防除上の留意点
- ①園地内の飛来状況を確認する。特に山際で毎年飛来がある園地では、気温の上昇につれて多くなる傾向にある。
- ②有機リン系は残効性がやや短く、ネオニコチノイド剤は吸汁阻害効果がある。
- ③合成ピレスロイド剤は指定地域で使用できるが、指定地域以外では使用しない。

7 シンクイムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、被害果はみられなかった。
- ②高森町（南信農業試験場）のナシヒメシンクイのフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年並である。
- (3) 防除上の留意点
- ①多発園や産卵のピーク時は、間隔をあけすぎないように「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②今後、気温が高く推移した場合、晩生種で被害が多くなる傾向があるので、最終防除時期が早くなりすぎないように注意する。

8 ハダニ類

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、6月下旬以降から発生がみられ、平年並の発生量である。
- ②気象要因（+） 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。今後の天候やほ場環境によっては、発生が増える可能性があるので注意する。
- (3) 防除上の留意点
- ①園内の発生状況に注意し、密度が増える前に「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②散布むらが生じないように丁寧に散布する。

9 リンゴコカクモンハマキ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では寄生はみられなかったが、これまでの発生量は平年並と予想される。
- (3) 防除上の留意点
- ①寄生が多い場合は、「県防除基準」を参照し、防除する。

Ⅶ も も

1 せん孔細菌病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、東信地域、中信地域で果実感染がみられるが、全般的に平年並の発生量であった。
- (3) 防除上の留意点
- ①果実や枝葉への感染は見つけ次第、必ず取り除き、埋没処分等を行う。
- ②「県防除基準」を参照し、収穫後も防除する。
- ③台風が襲来すると感染量が増えるので、気象情報にも注意する。

2 灰星病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、東信地域での発生がみられるが、発生量はほぼ平年並であった。
- (3) 防除上の留意点
- ①発病果は、見つけ次第除去して土中に埋めるなど適正に処理する。
- ②「県防除基準」を参照し、防除する。

3 ハダニ類

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、南信地域、中信地域で寄生がみられたが、平年並の発生量であった。
- (3) 防除上の留意点
- ①園地の発生状況に注意し、密度が増加する前に「県防除基準」を参照し、防除する。

4 シンクイムシ類（モモシンクイガ）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、被害果はみられなかった。
- ②須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年と比べやや少ない。
- (3) 防除上の留意点
- ①「県防除基準」を参照し、定期的に防除する。

5 モモハモグリガ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、東信地域、北信地域で被害葉はみられたが、発生量は平年並であった。
- ②須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年と比べやや少ない。

(3) 防除上の留意点

- ①第4世代成虫の発生始期（8月中下旬頃）に、「県防除基準」を参照し、防除する。
なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を順守する。
- ②多発ほ場では、9月上旬にも農薬登録のある殺虫剤を散布する。

6 リンゴコカクモンハマキ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、幼虫による新梢及び果実への被害はみられなかった。
- (3) 防除上の留意点
- ①「県防除基準」を参照し、防除する。

Ⅷ ぶどう

1 べと病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、東信地域、中信地域、北信地域で発生がみられたが、発生量は平年並である。
- (3) 防除上の留意点
- ①「県防除基準」を参照し、降雨前あるいは降雨後、すみやかに防除する。
- ②薬剤耐性菌出現を防止するため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。
- ③薬剤の散布むらが生じないように新梢管理を行う。

2 さび病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、発生はみられなかったが、発生量は平年並と予想される。
- (3) 防除上の留意点
- ①「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②べと病防除に用いるボルドー剤の散布で、発病が軽減される。

3 チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、中信地域で被害葉がみられた。
- ②須坂市（果樹試験場）の粘着トラップによる捕捉頭数は、平年と比べやや多い。
- (3) 防除上の留意点
- ①「県防除基準」を参照し、防除する。

IX かき

1 うどんこ病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、南信地域で発生がみられたが、発生量は平年並である。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除する。

2 炭疽病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、発生はみられなかったが、発生量は平年並である。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除する。

②降雨前に重点的に防除する。

3 円星落葉病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、発生はみられなかったが、本病の主要感染時期に適度な降雨があったため、発生量は平年並である。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除する。

4 カキクダアザミウマ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並である。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除する。

5 カキノヘタムシガ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並である。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除する。

6 ハマキムシ類

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並である。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除する。

7 フジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並である。

②高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年と比べ少なかった。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除する。

X 野菜

1 トマト輪紋病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、中信地域、南信地域の一部の露地栽培ほ場で発生がみられたが、全般的には発生量は平年並である。

(3) 防除上の留意点

①露地栽培では、気温が高く、降水量が多いと多発する。

②被害茎葉が次作の伝染源となるので、ほ場外で適切に処分する。

③「県防除基準」を参照し、防除する。

2 キュウリ炭疽病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、発生はみられなかったが、全般的には発生量は平年並である。

(3) 防除上の留意点

①例年、露地栽培後半での発生が多い。

②多発葉は早めに除去する。

③窒素過剰は発病を助長するので、施肥量に注意する。

3 キュウリ褐斑病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①巡回調査では発生はみられなかったが、全般的には発生量は平年並である。

②本病は、露地栽培後半の高温多雨条件で発生が多い。

③病原菌の発育適温は30℃前後である。

(3) 防除上の留意点

①発病を認めたら直ちに、「県防除基準」を参照し、防除する。

②ハウスでは高温多湿を防ぎ、多発葉は除去する。

③窒素過剰は発病を助長するので、施肥量に注意する。

4 キュウリうどんこ病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、南信地域の一部施設栽培（抑制）ほ場で発生がみられた。

②本病は、高温により発生が抑制される。

③気象要因（一） 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ①発病を認めたら直ちに、「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②下葉で発病の著しいものは摘葉する。

5 キャベツ黒腐病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では発生はみられなかったが、一般的に発生量は平年並である。
- ②雷雨など、強い降雨で作物が傷むと細菌性病害が発生しやすくなる。

(3) 防除上の留意点

- ①予防散布を基本として、「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②過湿、過乾、高温期、肥料切れの場合に発生しやすい。

6 ブロccoli黒腐病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では発生はみられなかった。
- ②雷雨など、強い降雨で作物が傷むと細菌性病害が発生しやすくなる。

(3) 防除上の留意点

- ①予防散布を基本として、「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②過湿、過乾、高温期栽培、肥料切れの場合に発生しやすい。

7 ハクサイ軟腐病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、東信地域の一部で発生がみられた。
- ②雷雨など、強い降雨で作物が傷むと細菌性病害が発生しやすくなる。
- ③高温時の降雨により発生が多くなる。

(3) 防除上の留意点

- ①予防散布を基本として、「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②毎年多発するほ場では、予防を徹底し、排水対策や耕種的防除に努める。
- ③降雨後は、速やかに防除を実施する。

8 アブラナ科野菜の黒斑細菌病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、発生はみられなかった。
- ②雷雨などの強い降雨で作物が傷むと、細菌性病害が発生しやすくなる。

(3) 防除上の留意点

- ①毎年発生するほ場では、定植直後からの予防防除を重視する。
- ②予防散布を基本として、「県防除基準」を参照し、防除する。

9 アブラナ科野菜のコナガ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、東信地域、北信地域の一部地域で食害がみられた。
- ②本種は高温で発生量が減少する。

③気象要因（一） 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②薬剤耐性菌出現を防止するため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。

10 レタス斑点細菌病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、東信地域の一部地域で発生がみられている。
- ②雷雨などの強い降雨で作物が傷むと、細菌性病害が発生しやすくなる。

(3) 防除上の留意点

- ①降雨後は、速やかに防除を実施する。
- ②害虫による食害は本病の発生を助長するので、害虫防除に努める。
- ③予防散布を基本として、「県防除基準」を参照し、防除する。

11 レタス腐敗病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、東信地域の一部地域で発生がみられている。
- ②例年この時期から多発する。

(3) 防除上の留意点

- ①夕立等の降雨状況に応じ、「県防除基準」を参照し、防除する。

12 レタス軟腐病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では発生はみられなかったが、例年この時期から多発する。
- ②雷雨など、強い降雨で作物が傷むと細菌性病害が発生しやすくなる。
- ③高温時の降雨により発生が多くなる。

(3) 防除上の留意点

- ①毎年多発するほ場では予防を徹底し、排水対策や耕種的防除に努める。
- ②降雨後は、速やかに防除を実施する。
- ③予防散布を基本として、「県防除基準」を参照し、防除する。

13 アスパラガス茎枯病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、北信地域で発生がみられた。
- ②例年9月以降の降雨で、発生が増加する。
- (3) 防除上の留意点
 - ①風通しの悪いほ場で多発するので、過繁茂にしないよう茎葉の整理を励行する。
 - ②発病を認めたら直ちにほ場外へ持ち出し、適正に処分する。
 - ③敷きわらや土寄せをして、土壌の跳ね返りによる病原菌の付着を防ぐ。
 - ④「県防除基準」を参照し、防除する。

14 アスパラガス斑点病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ①巡回調査では発生はみられなかった。
 - ②例年9月以降の降雨で、発生が増加する。
- (3) 防除上の留意点
 - ①風通しの悪いほ場で多発するので、過繁茂にしないよう茎葉の整理を励行する。
 - ②罹病した茎葉は、ほ場外へ持ち出し適正に処分する。
 - ③発病を認めたら直ちに、「県防除基準」を参照し、防除する。
 - ④敷きわらや土寄せをして、土壌の跳ね返りによる病原菌の付着を防ぐ。

15 オオタバコガ（野菜・花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ①巡回調査では、東信地域、南信地域、中信地域のジュース用トマト栽培ほ場の一部で、幼果への食入被害がみられた。
 - ②気象要因（+） 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除上の留意点
 - ①幼虫の早期発見に努め、若齢幼虫を対象に防除を徹底する。
 - ②「県防除基準」を参照し、防除する。
 - ③果菜類では、被害果の早期摘果と処分（土中に埋める等）を徹底する。また、花きで摘芯・摘花した脇芽・花蕾等も果菜類に準じて適正な処分を行う。
 - ④施設栽培では、開口部を寒冷紗等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。

16 アブラムシ類（野菜・花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ①巡回調査では中信地域のスイカで寄生がみられた。
 - ②本種は高温で発生量が減少する。
- (3) 防除上の留意点
 - ①CMV等のウイルスを媒介するので、早期防除を心がける。特に果菜類では、よく観察し、アブラムシのコロニーを見つけたら速やかに防除を実施する。
 - ②「県防除基準」を参照し、防除する。
 - ③施設では、天敵の利用も検討する。

17 ハモグリバエ類（野菜・花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ①巡回調査では南信地域、中信地域のねぎ一部で被害がみられたが、全般的には発生量は平年並である。
- (3) 防除上の留意点
 - ①施設では一年中発生する。
 - ②ナモグリバエは夏季の発生は少ないが、秋には増加する。
 - ③多発する前に「県防除基準」を参照し、防除する。

18 アザミウマ類（野菜・花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ①巡回調査では東信地域のいちご、中信地域、南信地域、北信地域のアスパラガス及びねぎ、一部地域の露地栽培の果菜類で寄生がみられている。
 - ②ねぎ等の露地栽培の野菜花き類では、例年これから被害が増加する時期である。
 - ③気象要因（+） 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除上の留意点
 - ①TSWV等のウイルスを媒介するので、早期発見に努め、被害や成虫を確認したら直ちに防除を実施する。
 - ②「県防除基準」を参照し、防除する。

19 ハダニ類（野菜・花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ①巡回調査では中信地域のすいか、東信地域、北信地域のアスパラガスほ場で寄生がみられている。
 - ②露地栽培の野菜花き類では、例年これから被害が増加する時期になる。
 - ③気象要因（+） 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除上の留意点
 - ①乾燥条件が続くと多発する。
 - ②「県防除基準」を参照し、防除する。
 - ③同一殺ダニ剤の使用は、栽培期間中1回を厳守する。
 - ④施設栽培では防除が遅れると多発するので、早期防除に努める。